

# 家畜衛生広報



ながの

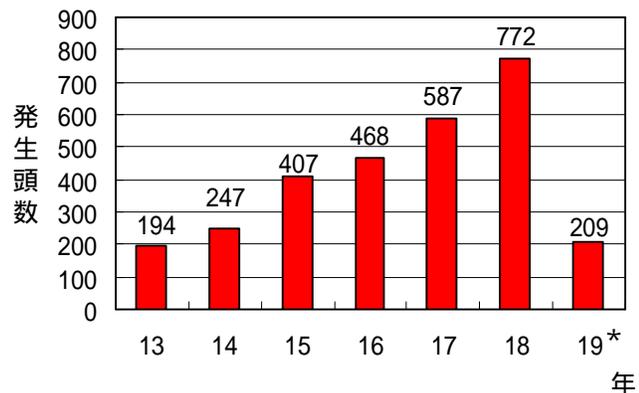
長野家畜保健衛生所  
北信家畜畜産物衛生指導協会  
長野市安茂里米村1993  
026-226-0923

平成19年(2007年)7月

## 牛白血病に注意しましょう！！

本病は、全国では、平成13年に194頭の発生であったものが、平成18年には772頭となり、年々増加しています。(右グラフ参照)

牛白血病とはどういう病気か、また対策について記載しますので、本病のまん延防止に努めましょう。



牛白血病発生頭数の推移

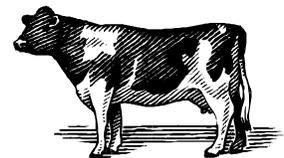
\*: 3月末現在

### 牛白血病とは？

牛白血病は家畜伝染病予防法に指定されている届出伝染病(発症牛)で、リンパ系細胞の異常増殖によって起こる悪性腫瘍です。

#### (1) 原因

牛白血病ウイルス(以下 BLV という)で、牛の白血球のうちリンパ系細胞に感染し、長い潜伏期間を経て一部の牛で白血病を発症します。



#### (2) 感染様式

- ・ BLV に感染した白血球が直腸検査用手袋や注射針、除角器等からの感染
- ・ 感染牛のうち持続性リンパ球増多症(以下 PL 牛)を呈した牛や発病牛からの胎児感染
- ・ 抗体陽性牛の初乳給与により感染
- ・ アブなどの吸血昆虫が機械的に伝播することにより感染

PL 牛: 目安として、BLV 抗体陽性でリンパ球数 12,000 個/ $\mu$ L 以上を呈する牛。

#### (3) 臨床症状

BLV 感染牛の 60~70%は無症状ですが、周囲の牛への感染源となります。また、感染牛の約 30%は PL 牛となりますが、臨床的には異常を呈しません。

感染牛の一部(0.2~0.5%)は 1~8 年後に発症し、消瘦、元気消失、食欲不振、眼球突出、乳量減少等となる他、体表リンパ節の腫大が起こります。また発症牛は数週間から数ヶ月で致死的経過をとります。

治療方法はありません。

## 対策は？

### (1) 感染牛の摘発

- ・ 抗体陰性牛：定期的に抗体検査を実施し、抗体陽性牛を摘発
- ・ 抗体陽性牛：定期的に血液検査を実施し、PL 牛を摘発
- ・ 導入・移出牛：その都度、抗体検査を実施
- ・ 子牛：生後 6～8 ヶ月で抗体検査を実施

\* 抗体検査及び血液検査：家畜保健衛生所において受付けています。

(手数料は各 800 円/頭)

### (2) 感染経路の遮断

- ・ 抗体陽性牛と陰性牛は原則として隔離飼育をしましょう。
- ・ 搾乳、診療、給餌等の作業は抗体陰性群からワンウェイ方式で行いましょう。
- ・ 注射は 1 頭 1 針、直検手袋は 1 頭 1 回の使用としましょう。
- ・ 出血を伴う処置は、器具等を 1 頭ずつ交換しましょう。
- ・ できるだけ吸血昆虫の除去に努めましょう。



### (3) 子牛対策

- ・ 原則として、発病牛及び PL 牛は繁殖に供しないようにしましょう。
- ・ 分娩は、専用の牛房で 1 頭ずつ行いましょう。
- ・ 子牛には、抗体陰性牛の初乳を給与しましょう。
- ・ やむを得ず抗体陽性牛の初乳を使う場合は、56℃、30 分加熱した初乳又は一旦冷凍した初乳を解凍してから給与しましょう。

なお、市販品で乳汁の加温機(17 万円程度)あるいは免疫グロブリンを含む粉乳があります。(ヨーネ病など、他の感染症対策にも有効です。)

### (4) 抗体陽性牛のとう汰

感染源となるので、可能な限り、とう汰の対象としましょう。

### 動物の白血病について

ヒト、ネズミ、鶏等でも白血病が知られていますが、各動物の白血病ウイルスは、特異性が強いので、牛白血病ウイルスがヒトに感染することはありません。

参考文献：小沼操：牛白血病ウイルスの伝播、家畜診療（2003）

#### 問い合わせ・連絡先

長野県長野家畜保健衛生所 防疫課 (担当 : 久保田和弘 今村友子 唐澤哲哉)

Tel : 026-226-0923、Fax : 026-227-2665

E-mail : [nagakachiku@pref.nagano.jp](mailto:nagakachiku@pref.nagano.jp) URL : <http://www.pref.nagano.jp/xnousei/nagakaho/index.htm>